

実施日：10月5日（2校時）	
領 域：特別の教科 道徳	
取組名：カモノハシ （資料「いのちといじめを考える授業プラン50」小学館より）	
対 象：2年生	実施場所 2年生教室
ア ねらい 違いによって排除するのではなく、お互いの違いを認め合おうとする心情を育てる。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 1 カモノハシについて知る。 2 他の哺乳類との違いは「あってもいい違い」か「あってはダメな違い」かを考える。 3 お話Aを聞いて、カモノハシに対して自分ならどうするか考える。 4 お話Bを聞いてお話Aとの違いを考える。 5 感想を書く。	
ウ 連携先：家庭	
エ 連携に向けての取組 ・ 学級通信で授業の様子を知らせた。「違い」について、人権的な視点から授業を継続していることを伝え、そのことにより、家でも話をする家庭が増え、連絡帳でコメントを書いてくれる家庭もあった。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 ・ 特別支援学級の担任、通級指導の担当者とも連携をとり、違いを認め、支え合っている様子を交流する。 ・ 「違い」について人権的な視点から継続的に考えさせている。その都度自分の考えを発表させたり書かせたりすることで、自己の変容が感じられるようにする。	
カ 評価の方法 ・ ペア対話、班での話合いの様子 ・ ワークシート ・ 発表	
キ 成果 ・ 違っても当たり前という感覚が育っている。 ・ 友だちの発言に対して自然と拍手がおこり、認め合える雰囲気がある。 ・ カモノハシに寄り添い、疎外されて悲しい気持ちに共感できた。 ・ いじめを自分事として考え、どうしたらいいかを考えることができた。	
ク 課題 お互いの違いを認めることはできたが、それぞれの共通点を見つけることによって、仲間だと認めるところまでとどまった。共通点はなくとも、無条件に受け入れられる態度を育てるところまで高めていきたい。	